

家庭科

馳 裕紀子

1 家庭科における「よりよい未来を志向する子」

新学習指導要領において、家庭科における資質・能力については、実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方としている。

そのため、本校の家庭科では、衣食住などに関する知識及び技能を身に付け、それらを家庭生活の中に取り入れ、実践していくことを通して、子どもが家族の一員として自分の生活をよりよくしようとすることをめざしている。そのため、製作、調理などの実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動に目的意識をもって取り組むことができるようにし、このことが実感の伴った理解につながり、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる考える。また、生活環境の異なる友達と自分の生活について話し合い、交流することで、新たな気付きを得ることができる。これらの身に付けた知識及び技能や新たな気付きが、家族の一員として自分の生活の中で実践しようとする子どもの育成につながっていく。

家庭科における「よりよい未来を志向する」とは、身に付けた知識及び技能を自分の生活場面にあてはめ、生活をよりよくしようとする考えをくり返し、生活場面で使えるようにしていくことである。そのためには、生活経験をもとに身近な生活事象をふり返ることで、「もっとこうしたい」「なぜこうするのだろう」といった思いや考えをもつ。そして、実践的・体験的な活動を行い、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けたり、生活に欠かせない行為のよさを実感したりすることが重要である。

以上のことから、家庭科における「よりよい未来を志向する子」を次のようにとらえる。

- ・ 題材のゴールをイメージし 本時の課題意識・目的意識をもち 自分の生活をよりよくしようと学び続ける子
- ・ 他者の思いや考えを共有し 多様な視点で生活事象及び自分の生活を見直す子
- ・ これまでの学びを自分の生活に当てはめ 自分の生活をよりよくしようとする子

2 家庭科における未来へ生かす決める授業デザイン

題材導入時に自分の生活場面をふり返る活動を行う。生活場面をふり返ることで、これまで特に意識することなく行っていた生活事象を意識し、なぜそのようなことをするのだろうと疑問に思うこともあるだろう。また、生活場面を想起し、それぞれの思いや考えを話し合うことで、学習することに対するイメージが広がると考える。これらが学習に対する関心を高め、題材を通しての課題意識・目的意識をもち、学習計画を立てる（決める）ことにつながっていく。

子どもは、それぞれの生活環境が異なるため、同じ生活事象に目を向け、かかわったとしても、同じ見方・考え方をする子どももいれば、異なった見方・考え方をする子どももいる。かかわることを通して、「同じ考え方だが、していることが違う」「していることは同じだが、考え方は違う」などの気づきがあるだろう。このように他者とかわることで、自分の見方・考え方を広げたり深めたりし、自分の考えを更新していく（決める）。

毎時間の授業で、ふりかえりを行う。考えたことやわかったこと、できるようになったことをふり返ることで自分の考えを再構成することができる。また、家庭での様子を想起し、本時の学習と結び付けることから、自分の生活での実践にもつながりやすくなるだろう。

題材終末時には、子どもが本題材の省察を行う。わかったこと、できるようになったことをふり返り、明確にすることによって自己の成長を感じるとともに、自分の生活で実践してみようとするだろう。その上で既習をもとに、自分の生活がよりよいものになるよう、どのように実践するのかを決める。自分の生活の中で実践することができれば、さらに自己の成長を実感するとともに、家族にほめられ、家族の一員だと改めて感じるだろう。そして、この経験が

これからの生活を送る上で、より豊かな生活を創っていかうとすることにつながっていくと考える。

3 決める授業の手だて

(1) 学びへの原動力を形成する「決める」

家庭科では、身に付けた知識及び技能を家庭で実践することが重要である。そのため、題材終末時に自分の生活で実践することを考え、これまでの生活をふり返った上で、題材を通しての課題を決める。そして、その課題を意識しつつ1時間ごとの課題をつくる。こうすることで、課題を追究する意欲が高まるとともに、目的意識をもって製作、調理などの実習方法を決め、学習を進めることができる。これらをくり返すことが、日常生活に必要な知識及び技能が身に付けさせ、自分の生活での実践への意欲を高めることにつながる。

題材導入時の生活場面をふり返る際にはワークシートを用いる。ワークシートには本題材で学習する内容にかかわる自分の生活をふり返り、記述する。可視化することで、あまり意識することがなかった生活事象について改めて考えるきっかけとなる。そして、記述したことをもとに話し合うことにより、自分の考えと友達のとの間にある共通点や相違点が明確になり、学習することを焦点化することができる。

また、学習する上で大切なキーワードを示すことで、同じ方向性で考えることができるようにすることもある。例えば、季節に合った過ごし方を考える際、始めに「快適」という言葉を示す。子どもは生活場面を想起し話し合うことにより、夏であれば「すずしい」や「べとべとしない」など具体的なイメージをもつ。イメージをもった子どもは、家族の様子を見たり聞いたりし、自ら課題について考えるようになるだろう。

(2) 多様な視点から根拠をもって判断する「決める」

日常生活に必要な知識及び技能を身に付けるには、実践したり体験したりすることが大切である。しかし、考えることなく実践や体験をしても、実感が伴っていなければ、知識及び技能が身に付いたとは言い難い。そこで、子どもやグループが課題の中にある多くの観点の中から一つの観点を決め、そのことについて試したり調べたりする活動を行う。試したり調べたりしたことを互いに伝えたり、受けとめたりすることで、課題を解決することや、より広く深い実感の伴った理解につながる。

これまで意識することなく行ってきた日常生活の行為が、友達と交流することで、その行為の価値や利点に気付いたり、新たな行為を知ったりすることもある。交流を通して、自分の生活の中の必要な行為に気づき、自分の生活の中に取り入れようとすることもあるだろう。

(3) 今までの学びをふり返り 未来に役立てる「決める」

毎時間、授業終末時にふりかえりシートを用いてふり返る。ふりかえりシートに記述するためには1時間の授業を通して何がわかったのか、できるようになったのかを自分の中で再構成することになる。これからしてみたいことを記述することで、自分の生活でどのように実践するのかを決め、実践への意欲を高めることができるだろう。

題材終末時には省察を行う。わかる、できるようになったことを、1年を通して「1年間の学び～家庭科の学習を通して～」という1枚のワークシートに書き足していく。少しずつできることが増えていくことで、自己の成長を実感することができるだろう。この学習をどのように生かすか、次にどんなことを学びたいかについては、省察シートに記述する。生かすことについて改めて考えることで、自分の生活で実践することへの意識を高める。

そして、既習をもとに家庭実践計画書を作成する。だれのために、何をするのかを決め、計画書に記述する。相手意識を高めることにより、学習したことをもとに、自分の生活に合ったものへと工夫することにつながるからである。家庭での実践後、実践したことを文や写真などで記録し、家族からコメントを書いてもらい家庭実践報告書とする。家族からのコメントは満足感や達成感、家族の一員であることを改めて感じ、次の実践への意欲を高め、生活をよりよくすることへとつながっていく。このような計画、家庭での実践、ふり返るという経験を積み重ねることにより、これからの自分の生活に自発的にかかわり、より豊かな生活を創っていくのではないかと考える。